

(第3種郵便物認可)

中

一宮モーニングに知財功労賞



受賞を喜ぶ豊島会頭（右から2人目）ら。一宮商工会議所で

商議所で初「継続的な魅力発信評価」のの特許庁長官表彰を受ける。豊島半七会頭は十日の記者会見で「商議所としては初めての受賞。引き続きモーニングを発信していきたい」と話した。

一宮市の喫茶店で提供される「一宮モーニング」を地域団体商標として登録する一宮商工会議所が、知的財産制度を有効活用した団体などに贈られる「知財功

「一宮モーニング」は、二〇一六年に地域ブランドの保護をねらった地域団体商標に認定された。条件として市内の飲食店で提供され、卵をつけること、できるだけ地元産の食材を使うことが定められ、現在九十六店舗が加盟している。

一宮商議所では、地元の食文化であるモーニングをアピールするため、〇九年に「一宮モーニング協議会」を設立。それ以来、地元の高校生とコラボしたり、テイクアウトできるモーニングメニューのコンテストを開いたりして、積極的に魅力を発信してきた。

今回の受賞は、市全体で協力し合って継続的に取り組んできた活動が評価された。豊島会頭は「モーニングにはおもてなしの心が底流にある。コロナ禍でも工夫して活動し、継続することの大切さを感じた」と語った。

戦争を忘れない 絵で訴え

蟹江の加藤さん 名古屋で個展



「見ていてつらい絵が多いかもしれないが、描かなければいけないと思った」と語る加藤さん＝名古屋市中区錦1のギャラリー名芳洞で

協議会の板倉敷会長は「一宮と言われるようにした「モーニング」といえば、一い。いずれは辞書にも載るくらいいなれば」と意気込んだ。（猿渡健留）

ロシアの軍事侵攻が続くウクライナの惨状を憂い、蟹江町の画家、加藤直樹さん（68）が、戦争画の個展を名古屋市中区錦1のギャラリー名芳洞で開いている。

「無関心と忘却」をテーマとし、「殺りくが繰り返されてきたのが人の歴史。せめて自分はそのことを忘れてたかない」と訴える。二十三日まで。

元小学校教諭の加藤さんは三十年前、ポーランドのアウシュビッツ強制収容所を訪問。関連する著書や太平洋戦争を題材にした作品を多く制作してきた。過去を忘れないという思いから

加藤さんは「現実の悲劇に対し、ただの傍観者として同時代を生きている自分がいる。絵を描くことで寄り添うことしかできないが、描くことで画家としての立脚点も確認している」と話した。（小島哲男）